

2月にはサントリー美術館で四百年遠忌記念特別展織田有楽斎、そして国立博物館で特別展本阿弥光悦の大宇宙を鑑賞してきました。

織田有楽斎は織田信長の弟ですが、本能寺の変では二条御所で信忠が自害した際、御所から逃げたという戦国武将としてはマイナスのイメージを持たれていました。その後は豊臣、徳川に仕え生涯を閉じましたが、戦いというより、戦中の交渉、例えば小牧長久手の戦いでは折衝役として重要な役割を果たしました。また豊臣秀吉に仕えた後は剃髪し、有楽と称し茶人として活躍しました。茶道は千利休に学び利休十哲に数えられています。独自の有楽流の祖として現代に伝えられています。その後建仁寺塔頭正伝院を再興し、現在は国宝に指定されている茶室如庵を建てました。特別展では有楽斎手造茶碗の数々、茶の湯を通して大名、高僧、町衆との交流が分かる書状、愛刀などが展示されています。特別展観覧後は建仁寺正伝院、如庵を是非この目で見てみたいなという思いに駆られました。

本阿弥光悦はもともと家業である刀剣鑑定、研磨、浄拭に従事していたようですが、書、陶芸、漆芸、能楽、茶の湯などに携わり日本文化に多大な影響を与えたとされています。まさに日本のレオナルドダヴィンチですね。特別展では俵屋宗達とのコラボの鶴下絵三十六歌仙和歌巻は13mを超えた作品で圧巻、その他国宝舟橋蒔絵硯箱、光悦作楽焼など様々な分野で活躍された作品が展示されていました。晩年は徳



今年最初に最後のイチゴ狩り、御馳走様でした。

川家康より拝領した京都鷹峯にて芸術村を築きました。有楽斎と光悦は同時代に生きていたのですが交流はなかったのかなど興味深々です。一つ豆知識ですが、有楽町の名は有楽斎の江戸屋敷跡に由来しているようです。現代美術にはあまり興味のない私ですが、戦国から江戸初期にかけての美術品達に触れられた有意義な時間でした。



中は写真が撮れません、悪しからず。



国立博物館前で、謎のフェスが。外人さんが甲冑着て楽しそうです。



クリこば



Clinica de Kobayashi

クリニカdeこばやし

内科・循環器科

月～金 9:00～12:30,
16:00～19:00
土 9:00～12:00,
14:30～17:00

木曜・日曜・祝日 休診

〒276-0029 千葉県八千代市村上南1-5-28-2F TEL&FAX 047-405-6503 www.clinica-k.com